

「戦国大名三好氏の興亡と三好生勝」を開催しました！

2015.6.23 (レポーター 日高 愛)

6月6日(土)、当館で「戦国大名三好氏の興亡と三好生勝」と題して講演会を開催しました。

この講演会は、先日まで当館で開催していた収蔵文書展「広島藩士三好家文書展」と関連し、関西大学非常勤講師の天野忠幸氏を講師としてお迎えし、参加者約160名と大変盛況となりました。

広島藩士三好家の初代三好生勝と、その先祖であり戦国大名だった三好長慶を中心に、三好家を取り巻く武将やこの時代の出来事をお話ししていただきました。

今回の講演会の様子などをお伝えします。



★展示担当者の声★

「生勝」の確かな読み方は不明で、展示図録にルビをつけることはできませんでしたが、一般的には「なりかつ」と読むと思われれます。



三好家の系図から、まず三好家とはというところから始まり、長慶の活躍を中心に、足利氏や織田信長との関係、三好家と毛利家との関係などについて話がありました。

ところどころに裏話があり、他の戦国大名と違い、足利幕府を倒そうと野心を抱いた長慶を信長が模倣したという話や、18世紀のオランダの歴史地図帳では、日本の統治者として長慶の名前が記されていること、さらに天皇からの信任の象徴である桐紋の使用を認められたことなど、朝廷からも公認され、長慶の人柄と功績が分かるエピソードが満載でした。

15歳で分家から本家の長慶の養子になった義継が家督を継承し、そして信長や秀吉、黒田家の家臣となった後に広島藩士として仕えた生勝へと話は進み、三好家の歴史とその時代の活躍を身近に感じることができました。

天野講師の講演に、参加者は資料を見ながら、メモを取りながら、話に聞き入り、それぞれの熱気が伝わる講演会となりました。

★参加者の声★ (一部)

- ・新たな視点でこの時代を見ることができた。三好家文書の意味もよく分かりました。
- ・たかが三好、されど三好と感じました。家が續くってすごいことです。
- ・今回の内容は知られていない歴史の一頁を紐解く貴重な講演でした。
- ・古文書で描かれた大河ドラマを見せていただいたような。
- ・三好生勝の人物像が興味深く、先生によって浮かび上がり、勉強になりました。



展示見学



書庫見学



希望者にはさらに当館の書庫見学にもご案内しました。

古文書庫では、文書の多さに「寄贈は多いのですか？」と質問があり、毎年あることをお伝えすると、今後の書庫スペースの心配をしてくださる場面も。

原文書や複製資料、新聞、航空写真、行政文書などを実際に見ていただき、ところどころで、「なるほど〜」「すごい！」などの声もあり、充実した一日となったようです。



講演会後は、希望者に展示担当者の西村総括研究員が展示の解説を行いました。

この日は、展示品を全て原文書に入れ替え、展示室内には文書がズラリと並び、壮観でした！参加者からも感動の声が上がっていました。

一つ一つの文書についてじっくり解説し、長時間になりましたが、皆さん熱心に聞き入っておられました。

遥か昔の三好家の歴史と戦国時代の名だたる武将との関係を示す三好家の文書が今ここに伝わってきたことのありがたさ、それを解明しようと研究する方々の情熱やユーモアが伝わり、私自身も三好家について知るきっかけとなりました。

今に伝わってきた文書があり、それを探求しようとする心とそれを皆さんに知ってほしいとの願いを持つ人。そして歴史に興味を抱き知りたいたいと考えている方々—私たち文書館はこれからも両者の架け橋であり続けたいと思います。